

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにようになる。



どっちかな？



6月、もんしろちょうの小さな卵を見つけた。青虫になり、蛹になり、8匹も羽化した。しばらく様子を見ていたとき、もんしろちょうってオスとメスってあるのかな？」と友達に話しかけていた。「うーん」「分かんない・・・」するとそのときに、「春探しに行ったときに、図鑑持っていったよ。」と思い出し、保育室の絵本棚から図鑑を持ってきて探し始めた。

保育者の援助と環境構成

もんしろちょうとの触れ合いにおいて、小さな卵から青虫になり、キャベツを食べて目で分かるくらいに大きくなっていく過程では、面白さや不思議さを友達と共感していました。また、疑問もに思ったオスとメスの違いについて「知りたい」気持ちから、どうやったら分かるのかを考え、春に図鑑を使ったことを思い出し調べ始めました。環境として常に目に留まりやすいように、絵本コーナーには季節に合わせた自然の本や図鑑を置いています。また子どもたちの「知りたい。」「調べたい。」という思いに添い、一緒に考え、時には仲間の一人として向き合うようにしています。



いえ～い！ 成功だ！

廃材で球を転がすコース作りが始まった。高い位置から球を転がし、床面近くに設定したゴールまで転がるとみんなで大喜び。「次は自分にやらせて！」と順番待ちができる。でも、牛乳パックを開いて作ったコースは、少し不安定。球を転がすたびに、コースの角度や位置が微妙にずれて、球が止まったり、コースアウトしたりということもある。そんな時は「ちょっと待って。まだ転がさないで、修理するから。」と言って、球がうまく転がらなかった箇所を点検し修正していた。



保育者の援助と環境構成

もともと、保育室の壁面を利用して廃材を貼り付け、ビー玉転がしのコースを作っていたところを、もっと友達を巻き込んで遊べるようにとサイズアップした場と廃材を準備しました。高いところから低いところに転がる力を利用できるように踏み台を準備したり、コースが設置しやすい机を置いたり、援助を行いました。また、試しながら修正できるように、安易に手を貸すのではなく、必要最小限の言葉に心がけました。



氷ができてたー

冬だからできる遊びが氷作りです。製作コーナーから透明カップを探してきて、水を入れ、いろいろな場所に置きます。翌日、朝の挨拶をした後、カップまでまっしぐら！「できてない。どうしてかな？」「あったかいからじゃない？」「今度違うところも置いてみようよ」と、いろいろと考えて試しています。氷作りは花や葉を入れてみたり、色を付けたり、「大きな氷を作りたい。」とバケツを使ったりと、遊びは広がっていきました。氷ができた朝は大歓声が聞かれました。そして「冷たーい！」の声もです。

